

やなけん！

台東区立谷中小学校 研究だより

第5号

令和4年 7月3日(水)
台東区立谷中小学校
研究推進委員会

研究主題 よく考え工夫する児童の育成 ～体育科におけるICTの活用を通して～

第3回研究授業報告！

【日時】6月29日(水) 5校時 【対象】3年1組 29名

【授業者】武藤 麻希教諭 【領域】ネット型ゲーム

【単元名】「とって！つないで！キャッチバレーボール」

本時の学習のめあては「攻めや守りのよいプレーを見付けよう」でした。学習過程を工夫したり、音楽で時間を区切ったりしたことで児童が見通しをもって主体的に運動することができました。また、はじめのルールや、児童のよい動きなどを映像で共有したことにより、ルールを短時間で理解できたり、「何がよい動きなのか」が明確になったりして、ICTを効果的に活用することができました。授業評価シートでも全てのポイントが高く、研究主題に沿った素晴らしい授業でした！



授業評価シートより

- ・武藤先生がめあてに沿った声掛けをたくさんしていて、学習のねらいがきちんと意識された授業だった。
- ・武藤先生が素早く動いて児童のよいプレーを称えていたり、児童が答えやすい発問をしていたりして、真似したいと思った。
- ・チーム編成の配慮が本当に素晴らしかった。
- ・音楽で時間を区切るのが素晴らしかった。
- ・児童がタブレットをうまく活用していて、今後も授業が深まっていくと感じた。
- ・子供たちの振り返りからめあてに沿った振り返りを紹介し、全体に共有していくことで次の試合につなげていけることが分かった。

評価項目	平均値
1. 児童の運動量は十分に確保されていた。	4.667
2. 教師は場面展開をスムーズに行っていた。	4.667
3. 児童の移動や待機の場面が少なかった。	4.556
4. 児童はよく考えて学習していた。	4.333
5. 児童は動きを工夫して運動していた。	4.333
6. 児童の思考力を高めるためにICTの活用は有効であった。	4.333
7. 児童は主体的に学習に取り組んでいた	4.778
8. 児童は楽しく学習していた。	4.889
9. 児童は授業の約束事を守っていた。	4.556
10. 教師は児童に適切な言葉かけをしていた。	5

◎成果と▲課題

- ◎学習過程を工夫したり、音楽で運動時間を区切ったりしたことにより、児童が主体的に動くことができ、運動量も十分確保できていた。
- ◎授業者が常に本時のねらいを意識し、児童に言葉かけをしたことにより、児童はめあてを意識して運動することができていた。
- ◎中学年分科会でゲームのルールを検討し、ワンバウンドありや、5回パスをするなど、ルールを工夫したことにより、児童にとって「自分もできそう」「これならできる」という意識が生まれ、キャッチバレーに夢中になって楽しく学習することができていた。
- ◎チームタイムでタブレットを活用したことにより、これまでの作戦をデータで蓄積することができ、前回の作戦を見返しながらかし合うチームの姿もあった。
- ▲授業者がねらいを意識した言葉かけをし、児童もめあてを意識していたものの、チームタイムやゲーム中に具体的な動きの言葉の掛け合いが少なかったため、思考面での評価が難しかった。

授業者(武藤麻希教諭)より

本時の授業を迎えるまで、中学年分科会で何度も話し合いを重ねて当日を迎えました。第1時から学習過程の工夫を意識し、授業の流れを児童につかませるよう指導を重ねました。ICT活用に関しては、見本や課題のある動きの動画を見せることにより、児童の理解は深められたと実感しています。

45分間という決められた時間の中でどのように授業を展開するか分科会で考えている時間が私にとって一番価値のある時間でした。分科会で話し合い、一つの授業をみんなで作り上げる楽しさが校内研の醍醐味だと思います。

ご助言や励ましの言葉を掛けてくださった先生方、とても支えになりました。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。